

そんけい すべき ムスリムの みなさま！

わたしたちのぜんこのうのしゅ（スバーナワタアーラー）は、わたしたちをだんじょにそうぞうなさいました。それから、わたしたちがかぞくになれるというしゅくふくをさずけ、わたしたちのたましいがへいあんとやすらぎをえられ、わたしたちのころがたかめられるようにしてくださいました。かぞくになるということは、だんじょがごうほうなけっこんをとおしてかていをきずくということです。かぞくになるということは、ふたつのいのちがひとつになり、ふたつのころがひとつのたましいになるということです。かぞくになるのとおなじくらい、かぞくをまもることもたいせつです。かぞくをまもるということは、はいぐうしゃどうしがたがいにあいてをおもいやり、あいじょうとせいじつさをもってせつするということです。そのなかには、たがいにあいてにたいするあらゆるしゅるいのつみやハラームをふせぎ、またていせつとめいよをまもることもふくまれています。

しんあいなる ムスリムの みなさま！

わたしたちは、にんげんのてんせいにとそぐわずかぞくせいどにはんするあらゆるしゅるいのはかいはきゅうそくにひろがるじだいをいきています。かぞくはこじんのじゅうをせいげんするものであり、そのためせきにんをおわずにひとりにくらすほうがよりみりよくてきだというかんがえかたがじょちようされています。しかし、かぞくであることはわたしたちのしゅ（スバーナワタアーラー）のめいれいであり、よげんしゃのスナであり、にんげんのてんせいとひつようとしていることです。このてんについて、わたしたちのぜんこのうのしゅ（スバーナワタアーラー）はとうといクルアーンをとおしてつぎのようにつげておられます。「あなたがたのために、あなたがたじしんのなかからそのはんりよをそうぞうし、いこいをえるようにし、あなたがたのあいだにしんあいとじひをあらしめたこともみしるしのひとつ。ほんとうにそのなかには、かえりみるたみへのみしるしがある。」¹ アッラーのしとは「けっこんはわたしのスナであり、わたしのスナにしたがわないなら、だれであれわたしとはなんのかかわりもない」²とあたり、かていをもつようすすめています。

しんあいなる しんこうしゃの みなさま！

わたしたちのすうこうなしゅうきょうであるイスラームの、いのちをあたえるげんそくをしっかりとまもりましょう。アッラーのめいれいとわたしたちのにんげんとしてのてんせいにとそって、きちんとしたかていせいかつをおくるどりよくをしましょう。てにてをと、ころをあわせ、かぞくというせいどとそのかちかんをいじしていくどりよくをしましょう。すこやかでちからづよくへいわなしゃかいは、だんじょのごうほうなけっこんによるかていがあるこそなりたつことをわすれてはなりません。

とうといクルアーンにあるつぎのいのりをもって、ほんじつのきんようれいはいのホトバをおわります。「しゅよ、わたしたちのはいぐうとしそのなかから、めにもすすやかな[よろこばしい]ものをさずけてください。わたしたちを、おそれるものせんどうしゃとしてください。」³

¹ Rum, 30/21.

² Ibn Majah, Nikah, 1.

³ Furqan, 25/74.